

7th International Conference on Integrated Disaster Risk Management Society (IDRiM) 2016 で研究成果を発表しました (2016/10/1-3)

テーマ：災害リスクマネジメント

場所：Hotel Abbasi (Isfahan, Iran)

2016年10月1日(土)から3日(月)の3日間、Isfahan (Iran) のHotel Abbasiにおいて、International Earthquake Engineering Association (IEEA)とIntegrated Disaster Risk Management (IDRiM)が主催、International Institute of Earthquake Engineering and Seismology (IIEES)が共催により、『The 7th International Conference on Integrated Disaster Risk Management (IDRiM 2016)』が開催されました。このカンファレンスには、世界中から約250名の研究者等が参加し、災害リスク軽減に関する研究発表が行われました。

当研究所からは、寅屋敷哲也助教(人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野)が登壇しました。講演題目等は次の通りです：

【研究成果発表】

Tetsuya Torayashiki, Hiroaki Maruya: Study on the Differences Between the Indirect Economic Impacts of the Predicted Volcanic Eruption and Earthquake in the Miyagi

※著者名は、筆頭著者と研究所構成員のみ記載。下線は研究所構成員。



カンファレンスのオープニングの様子



発表の様子 (寅屋敷助教)



発表会場の様子



カンファレンスのクロージングの様子

文責：寅屋敷 哲也 (人間・社会対応研究部門)